

ハーフスイングを極めよう! { 藤田寛之が確信する  
スイング向上の近道!

週刊

Weekly Pargolf

# パゴルフ

定価 ¥460  
2020 VOL.15  
5/5

ありや  
不思議

最下点の意識を  
変えるだけで  
ヘッドスピードが上がる!

シブコ効果だけじゃない

ピンゴルフが  
独り勝ちのなぜ?

しっかり食べてもOK!

血糖値が下がる  
3分間エクササイズ

感覚と動きのズレは

## ハーフスイング で直す

藤田寛之  
の確信

コロナ感染拡大の状況下  
リスクゼロに近づけるラウンド術

最新ドライバーの傾向

大慣性モーメントは  
何がいいのか?

日本のゴルフの原点 /

神戸GCに開場当時と同じ  
サンドグリーンが復活



**KGREEN株式会社 代表取締役社長**

**久保田一彦さん**

「グリーンに上がるときは芝を褒めるんです。  
『最近、評判いいよー』ってね(笑)」

グリーンの状態はゴルファーのプレーの満足度を大きく左右する。評判のいいコースは、たいていグリーンが素晴らしい。そんなゴルフコースの最重要ともいえるグリーンは、いったいどのようにメンテナンスがなされているのか。今回のゲスト-KGREEN株式会社の久保田一彦さんは、太平洋クラブ御殿場コースのグリーンキーパーから独立し、コースメンテナンスを請け負うビジネスを営んでいる。そもそも、いいグリーンとは何か? そこからお話を伺ってみよう。

文・山崎将志 構成・保井女秀 撮影・鈴木健夫 デザイン・豊伝会

「いいグリーンとは何か?」

トリーナメントレベル

の話でいえば、フェアなグリーンです」  
久保田さんは太平洋クラブ御殿場コースでの5年間の下積み生活後、グリーンキーパーとして10年間、三井住友V.I.S.A太平洋マスターズのグリーンを仕上げてきた。同大会では毎年13フィートから14フィートの高速グリーンが選手に最高のプレーを求めている。

「ただし、速い遅いだけではないんです。まずは18ホールと練習グリーン4面のスピードの差をすべて0.5フィートの中に収めるのを目標としています」  
これはすべてのグリーンでボールを4メートル転がしたときに誤差が15センチ以内になるほどのバラツキの小ささだ。

「それを目標にしていくと、コンバクション(グリーン hardness)もそろってきます。いいグリーンはコンバクションはローラーをかけた後、砂をまいたりではなく、根の張り具合で出しています」

ローラーを強くかけるとただ硬いだけのグリーンになるため、いいショットも悪いショットも止まらないグリーンになってしまうし、砂で硬くするとグリーンをヒットしたボールがボーンと弾かれてしまい、

スピゲ利かない。

「こういうグリーンだ」といってショットを打つても止まりませんから、ドライバーをとかくドカーンと打つて、そこからグリーンの手前に置き、アプローチ勝負というゲームになつてしまします。でも、本当に盛り上がるのは、しっかりとスピゲコントロールされたショットがピンアップにくるような試合だと思ふのです」

なるほど、いいショットにはいい結果を、それなりのショットにはそれなりの結果をもたらすグリーンを造ることが、フェアなグリーンということか。

「いいショットしか止まらないとなると、ティショットは飛距離よりもフェアウェイにあること、次打を狙いやすい場所に置くことが重要になつてきます。これができるプロしかスコアが出ません。だからスリーバーストットが生まれるんですよ」

## 久保田

さんは酪農学園大

道の農家のために頑張ろうとホクレンに入会した。しかし、職場の先輩からゴルフを教わつたら「これは面白い。ゴルフのために働く」と、突然の宗旨変更。道内のゴルフ場に転職し、キャディマスターの職を得た。支配人は大学で農業を学んだ久保

田さんをグリーンキーパーに育てたいと考えていた。そこで当時、コースとコンサル契約を結んでいた倉本昌弘プロに相談したところ、トーナメント期間中の太平洋クラブ御殿場コースで修業させてもらえることになった。

「グリーン刈りから教わつて、あつという間の2カ月でした」

修業が終わつて北海道に戻つたが、その2カ月間で見た刺激的な光景が頭から離れなかった。トーナメント期間中は太平洋クラブ全体から集めて通常の倍の30人態勢でコース管理を行う。

「御殿場のみんなはカッコよかつたなあと思ひ出に浸つているうちに我慢できなくなつて、当時の統括グリーンキーパーに手紙を出して、それで太平洋クラブ御殿場コースに採用してもらつたのです」

御殿場ではサブキーパーとして2001年のWGCEMCワールドカップも経験し、その後はキーパーとして10年間、最高のグリーン造りを研究・実践した。そして太平洋クラブの経営母体が代わるタイミンで独立し、コースメンテナンスを請け負うビジネスをスタートさせた。



## コースにいる時間は長いけどプレーする機会はほとんどない?

ゴルフ場が職場ともいえる久保田さんは、コースにいる時間は長いですが、自分がプレーする機会はほとんどないという。

「コースチェックラウンドというのが月1回ありまして、クライアントの社長さんや支配人さんと一緒に回りますが、そのくらいですね」

久保田さんがゴルフクラブの代わりに手にしているのは、(POGOシステム)という計測機器。病院のドクターが患者の体温や血圧を計測するように、グリーンへの傾斜や血圧データとして計測し、データベース化することで遠隔地からでもグリーンの状態をスマートフォンで把握することができるようになるという。

「グリーンに刺してデータを計測したら、2〜3メートル離れたところで、また計測します。これを毎朝18ホールやると、慣れてきても2時間半ぐらゐかりますからね」

(写真は森永高滝CCでグリーンへのデータ収集をしているときのもの)

「もともといつかは自分でビジネスをやりたいと思つていたので、いきつかけでしたね」

創業から7年たった現在は、キングフィールズゴルフクラブ、カレドニアン・ゴルフクラブ、森永高滝カントリー倶楽部など、千葉県の名コースが久保田イズムの実践先だ。久保田さんの提供するサービスは何が違うのか。

「一番違うのは、グリーンのコアリングをせず、一年中いい状態のグリーンを提供することです」

コアリングとは、グリーンの中身にたまっている死んだ芝の根を抜き取る作業のこと。約5センチ間隔で直径10ミリ、深さ数センチの穴を開けていく。畑ならば耕して空気を入れることで微生物を活性化させ、古い根や収穫し忘れた芋などの生分解

を進めることができる。

しかしグリーンは耕すことはできないため、死んだ根がたまつていく一方である。そこで必要となるのがコアリングであり、99パーセント以上のゴルフ場で春秋に行われている。必要を作業だとは理解しているものの、ゴルフアールとしては穴だらけのグリーンでのプレーは正直つらいものだ。

久保田さんはコアリングをする代わりに、細い鉄の棒で穴を開けて空気と必要な資材を入れることで、グリーン土中の微生物を活性化させ、生分解を進める方法を確立した。

「例えば森林はコアリングなんてされないですよ。そういう自然界のサイクルをグリーンへのメンテナンスに応用したのです。最初は私の師匠である太平洋クラブ御殿場コースの日比野(忠行)さんが研究を始めて

# いいショット それなりのショットに そのとおりの結果が もたらされるように



久保田一彦さん

(くぼた・かずひこ)

1968年生まれ、北海道出身。酪農学園大学卒業後、91年北海道ホクレン農業協同組合連合会に入会。97年に太平洋クラブ倶楽部コースへ転職。以来15年間、三井住友VISA太平洋マスターズのコースセティングを担当。2001年にはWGC-EMCワールドカップをサブキーパーとして経験。02年グリーンキーパーに就任。13年にKGREEN株式会社を設立。コースメンテナンスを駆け回るビジネスを手がけている。

確立したのを私が引き継いでやっています。たぶん会社としてコアリングしない管理を確立していると謳っているところは世界でうちだけだと思えますよ」

## グリーン

ンの話は聞けば聞くほど面白い。例

えばグリーンは毎年1センチぐらいずつ高くなっていくそう。死んだ根と毎月散布する砂の層が、どんどん積み上がっていきからだ。スプリングクレーが埋まっていくように見えるのもそのため、これは定期的にかさ上げする必要があるのだという。

また、芝は刈らなければ30センチほどまで伸びて、子孫を増やすために花をつける。しかしグリーンに芝はたったの3ミリにカットされ、硬い

ボールが当たれば即死だ。プレーヤーがボールマークを直してくれば再生できるが、盛り上がったままだと翌朝に恐ろしい機械が削り取ってしまう。

「芝にとっては過酷です。だから私、昔から一人でグリーンに上がるときは寝めるようにしているんですよ。」

「最近、評判いいよ」とか、「こんな暑い真夏に頑張ってるね」とか(笑)。人がいるときは頭がおかしいと思われちゃうから、口には出さないようにしているんですけどね」

独立して一人で始めたときは「久保田イズム」を大切にしようと思った。

しかしクライアントの数もスタッフも増えた今は、それを「KGREENイズム」へと昇華させた。「KGREENイズム」は人が持つノウハウ。だから人を急激に増やして拡大することはできないビジネスだ。依頼があれば何でも受けられるわけではないため、地域ナンバーワンのゴルフ場を造りたいというオーナーを手伝いたい、と久保田さんは考えている。

「われわれの新しい案件は、だいたい年末ごろから始まります。3カ月たって春になると、メンバーさんから「キーパーが代わったの?」という声が出てきます。それくらい変わるんですよ。それが、この仕事の面白さです」

## お話を聞いて

ゴルフコースのうんちくの一つに、誰が設計したコースなのかというのがある。「井上隆一はなかなかパーを取らせてくれない」、「デズモンド・ミューアヘッドはサディスティックだなあ」などと考えるが、これを回るのは面白い。これからはもう一つ、グリーンキーパーで選が流れができてきたらゴルフ場選びは今よりもっと面白い気がする。それまでに「久保田一彦のグリーンは速くて硬いけど、いいショットはよく止まるね」といえるように胸を磨くことにしよう。



ビジネスコンサルタント

山崎将志

(やまざき・まさし)

1971年生まれ、愛知県岡崎市出身。94年東京大学経済学部経営学科卒業。同年アクセンチュア入社。2003年に独立後、アジールパートナーズ、カシタクなどベンチャー企業を開発。10年4月に出版された「残念な人の思考法」が34万部のベストセラーとなり、書籍累計発行部数は100万部を超える。16年より「NHKラジオ仕事学のすすめ」講師。最新刊は「儲かる仕組みの思考法」。ハンディキャップは47.0

聞き手